上条・御坂・一方通行・垣根・麦野・坂田「学園都市最強の兄弟だ！！！」

ガラスオブチキン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上条・御坂・一方通行・垣根・麦野・坂田「学園都市最強の兄弟だ！！！」

【Ｎコード】

Ｎ１５５６Ｕ

【作者名】

ガラスオブチキン

【あらすじ】

上条・一方通行・垣根・御坂・麦野・坂田（オリキャラ）が兄弟っていう二次創作時系列がめちゃめちゃ

1日の終わり

注意事項
1、上条・御坂・一方通行・垣根・麦野・坂田（オリキャラ）が学園都市で兄弟で仲良く暮らします！
2、オリキャラだめだ！という人はお引き取りください
3、兄弟の構成は、麦野（長女）垣根（長男）一方通行・上条・坂田（次男）御坂（次女で一番下）
4、初投下です！誤字・脱字があるやめしれません
5、戦闘シーンがあります
6、特に恋愛はありません
以上を踏まえても、いいよという人はＯＫです。
無理だ！という人はお引き取りください
ではでは投下スタ～ト

「不幸だあああああああああ！！」という絶叫が聞こえる。
ピクリとおもわず、白髪オールバックの少年は立ち止まった。おもわず思い出したのは

黒髪ツンツン頭の少年
「またかよ…」白髪オールバックの少年はため息をついた。
彼の名前は坂田　太陽学園都市の住人だ

学園都市とは東北部あたりにあり名の通り学生が住む都市、人口２３０万人が住みその８割が学生である。
さらに学園都市では能力開発も行われている。
その能力開発とは簡単に言うと頭になんかしらの事をしてうんたらかんたらすれば火や風などを自らの意思でおこす事だ」
「さっきから誰に向かって言ってんだよ坂田」
「お前またスキルアウトにからまれたのかよ…」
「何でその事知ってるんでせうか？」

「不幸だあああああああああ！！！という絶叫が聞こえたんだよ上条」

「それだけで断定なのかよ！」

「いいから帰るぞ麦姉がきれる」

「麦姉がきれる」それだけでも帰るには充分すぎる材料だ

「わかったよまったく能力的にはお前のほうが強いのに何で怖いんだよ？」

「本気で言ってるのかそれ…」

「」「不幸だ」

「こっちのセリフだボケ」

プルルルル

「誰だよ、まったく」

坂田の携帯に電話がかかる

「げっ！」

「誰でせうか？」

「麦姉だよ…」

「」オワタ

実はこの二人家の門限を破っていたりする。
家で麦姉に逆らえるものはいないっと言っても過言ではない
このままでは二人仲良く上／条と坂／田ができあがる、そんな未来が簡単に想像できてしまう自分が哀れに思える。

「もしもし麦姉？」
意を決して電話にでる

「太陽！今すぐ家に帰ってきて！」

「どうかしたのかよ…」

あれ？怒ってない？何で？
ラッキーというより不気味に思える

「美琴の友達が来るのよ！」

「…なん…だと」

「だから、速く、帰ってこい！」

「わかったよ、まったく」

「何だったんだよ、怒ってなかったか？」

「美琴が友達が来るらしい」

「…なん…だと」

「とりあえず、すぐ帰るぞ！！」

「ああ！」

（美琴が友達をつれてくるのか…）
兄として家族としてなんだか嬉しい半面寂しくもある。
となりの上条もそんな顔をしていた…
家にて

「帰ってくるのが遅せええええんだよおぉぉぉぉぉぉ！！」

「うおぉ！アブねえ！？」ソゲブ

「帰っていきなり原子崩しはやめてください麦姉様！！」ドケザ

「チッ美琴に免じて許す土下座はいいから掃除しろ！」

「「イエス、マム！」」

「さっさと、掃除終わらせンぞォ！垣根！」

「当たり前だ一方！」

「馬鹿すぎる！」

「今なんッたぁド三下ァ！」

「そうだ！美琴が友達をつれてくるんたぞ！」

「気持ちは解るけど…」

三分後

ヘヤピカリーン

上条・坂田「」ナンテコッタイ（。д。；；）

「終わったぞォ！」

「うむ、よくやった！一方・帝督」

ピンポーン　オネエチャン？オニイチャン？ハイルヨ

「来たみたいね」

「あり？意外に冷静」
「当たり前じゃにゃい」
「「「「……」」」」
「ナニミテンノ」
「ナンデモナイデス」
「だたいま～」「「「オジャシマ～ス」」」
「おかえり、いらっしゃい」
「この人たちがお姉さまのお兄様とお姉さまですの？」
「うん！自慢のお兄ちゃんとお姉ちゃんだよ！」
（美琴が可愛いすぎて生きるのが辛い）ボタボタ
（激しく同意）ボタボタ
（全力で同意）ボタボタ
「お前ら鼻血でてるぞ」
「なんか飲む？」
「何でもいいですの」「私も」「じゃ私も」

「んじゃ入れてくるわね」
「紹介するわねまずホストみたいな人が第二位の垣根帝督お兄ちゃんだよ」
「え」
「第二位って御坂さんより上の」
「どもども」
「お茶を入れに行ったのが第四位の麦野沈理お姉ちゃん」
「レベル5！？」
「どもども」
「んで白くて細いのが第一位の一方通行お兄ちゃん」
「どもども」
「でツンツン頭がレベル0だけどあらゆる異能を打ち消す上条当麻お兄ちゃん」「どもども」
「それはレベル0何ですか！？」
「んで白髪オールバックが何と！レベル6第0位！坂田太陽お兄ちゃんだよ！」
「レベル6！？」
「どもども」

「凄い兄弟ですね！」

「そうか？」「普通の兄弟だよ」「みんなチートでせうが」「お前が言うなよ」「説得力が皆無だかなァ」「気にしてないけどね」「まったくだ」

（白井さん）（なんですの初春）（何で名字がバラバラとか聞いたらまずいですよね）

（当たり前ですの！）（ですよね～）家にて

「帰ってくるのが遅せええええんだよおぉぉぉぉぉ！！」

「うおぉ！アブねえ！？」ソゲブ

「帰っていきなり原子崩しはやめてください麦姉様！！」ドケザ

「チッ美琴に免じて許す土下座はいいから掃除しろ！」

「「イエス、マム！」」

「さっさと、掃除終わらせンぞォ！垣根！」

「当たり前だ一方！」

「馬鹿すぎる！」

「今なんッたぁド三下ァ！」

「そうだ！美琴が友達をつれてくるんたぞ！」
（なんで頭に花つけてんだろ？）（美琴が可愛いすぎて生きるのが辛い）ボタボタ

（激しく同意）ボタボタ

（全力で同意）ボタボタ

「お前ら鼻血でてるぞ」

「な家にて

「帰ってくるのが遅せええんだよおぉぉぉぉ！！」

「うおぉ！アブねえ！？」ソゲブ

「帰っていきなり原子崩しはやめてください麦姉様！！」ドケザ

「チッ美琴に免じて許す土下座はいいから掃除しろ！」

「「イエス、マム！」」

「さっさと、掃除終わらせンぞォ！垣根！」

「当たり前だ一方！」

「馬鹿すぎる！」

「今なんッたぁド三下ァ！」

「そうだ！美琴が友達をつれてくるんたぞ！」

「気持ちは解るけど…」

三分後

ヘヤピカリーン

上条・坂田「」ナンテコッタイ（。д。；；）

「終わったぞォ！」

「うむ、よくやった！一方・帝督」

ピンポーン　オネエチャン？オニイチャン？ハイルヨ

「来たみたいね」

「あり？意外に冷静」

「当たり前じゃにゃい」

「「「「……」」」」

「ナニミテンノ」

「ナンデモナイデス」

「だたいま～」「「「オジャシマ～ス」」」

「おかえり、いらっしゃい」

「この人たちがお姉さまのお兄様とお姉さまですの？」

「うん！自慢のお兄ちゃんとお姉ちゃんだよ！」

（美琴が可愛いすぎて生きるのが辛い）ボタボタ

（激しく同意）ボタボタ

（全力で同意）ボタボタ

「お前ら鼻血でてるぞ」

「なにか飲む？」

「いただきます」

「私も」「では私くしも」

「紹介するわねまずホストみたいな人が第二位の垣根帝督お兄ちゃん」

「」（。д。；；）

「どもども」

「さっきお茶を入れに行ったのが第四位の麦野沈理お姉ちゃんだよ」

「」ｗ（☆ｏ◎）ｗ

「どもども」

「んで白くて細いのが第一位の一方通行お兄ちゃんだよ！」

「」／（◎ｏ◎）／

「さらにツンツン頭のがレベル０だけどあらゆる異能の力を打ち消す上条当麻お兄ちゃん」

「」Ｌ（・ｏ・）」

「どもども」

「最後に白髪オールバックのが第０位レベル６の坂田太陽お兄ちゃんだよ」

「」♪へ（＾ｏ＾へ）（ノ＾ｏ＾）ノ♪ドウニデモナレー

「って凄すぎじゃないですか！」

「てゆうかレベルってレベル５までですよね？」

「まあ」

「詳しく説明すると俺の能力は幻想想像（イマジンクリエイター）って言って俺の能力は簡単に言うと多重能力者らしい」

「多重能力者！？」

「一人で２つ以上の能力持っている人の事ですよね！」

「でもそんな人いたらうわさぐらいになりますよね？」

「まあ、だけど測定機が何回やってもエラーになるんだよ…」

「なんでですか？」

「もともと、能力測定機は１個人の一つの能力を計るもの当然二人同時に計れるわけないでしょ。」「なるほど…」

「まあ、計れないけどレベル６ですって認めたくないからレベル０扱いだけど」

「まッたく、こいつがレベル０ふざけすぎだろォ」

「事実上無敵だもんねぇ」

「お前らには言われたくねえよ」上条「上条さんは羨まくないでせうよ」

御坂「当麻お兄ちゃんが言うとなんかおかしい」

上条「いや結構不便だぞこの右手」

佐天「すいません兄弟ですよね？」

坂田「そうだけど？」

佐天「なんで名字が違うんですか？」

一方通行「まあ義理の兄弟だからなァ」

佐天「そうなんですか？」

上条「俺の父さんが身寄りのない一方通行と麦姉と御坂と垣根と坂田をひきとったんだよ」

麦野「本当、まさかあの時一度も話した事なかった人に引き取られるなんて思いもしなかったよ」

垣根「おかげさまでちょっとの事じゃ驚かなくなっちまった」

佐天「すいません変な事聞いて」

一方通行「まァ全然似てねェからなァ」

麦野「突然だけどクラムチャウダー作ったから食べてく？」

御坂「私は今日泊まるけど？」

白井「そんなぁ、お姉さまあ！」

初春「いやぁ、今日はもう遅いんで」

佐天「さすがに悪いんで」

坂田「そうかきいつけてかえれよ」

「「「オジマシマシタ」」」

坂田「良さそうな友達じゃないか」

垣根「はん、俺の美琴は見る目がちげえんだよ」

麦野「あんたのではないでしょ」

一方通行「俺の美琴だからな」

上条「ちげえよ」

御坂「私はみんなのものだよ！」

坂田「俺達もな」

一方通行「きも！」

上条「まんざらでもなさそうだな」

一方通行「ンなわけあるかド三下」

麦野「はいはい喧嘩しない」

垣根「飯ぃ、持ってきたぞ」

御坂「わー！麦姉の作ったクラムチャウダー大好き！」

麦野「もう！なんで美琴はそんなに可愛いの！」ナデナデ

坂田「麦姉、美琴がたべらんないだろ」

垣根「一方通行ちゃんと座れ」

一方通行「チッわァッたよォ」

垣根「よろしい」

麦野「じゃ」

みんな「「「「「「「「イッタダキマ～ス」」」」」」」」

上条「美味いなやっぱり」

美琴「人参きらい食べて」

坂田「好き嫌いはいけないぞ」

美琴「いいじゃん第一坂田兄ちゃんだってトマト嫌いじゃない」

上条「トマトはみんな嫌いだろ、でも好き嫌いはいけないぞ」

美琴「わかったわよ！」パクッ

麦姉「えらいえらい」ナデナデ

美琴「ふにゃー」ゴロゴロ

一方通行「カメラとってくる」

垣根「見元物質で作ったぞ」

一方通行「お前…」

上条（さすがに引いたか、つかカメラ作ったてどんだけ）

一方通行「アップ機能ついてねェじゃねェかァ！」

上条「流石にそこまで予想できんかった」

垣根「そんな事もあろうかと作っておいたぜ」

一方通行「お前…天才か？」

坂田（ええ～！）

麦野「速くこの輝かしいツーショットとりなさい」

垣根「はいチーズ」パシャ

麦野「これで当分は大丈夫ね」

上条（何が！？）

坂田（気にしない方向で）

麦野「疲れたー美琴お風呂入りましょ」

美琴「いいわよー」

垣根・一方通行（おぉ、先どうぞ）

垣根・一方通行「美琴とお風呂だとおォ！？めっちゃ一緒に入りてぇ！」

上条「お前ら…」

坂田「本音とたてまえが逆だな」

麦野「垣根ぇ～一方通行ァ～」

垣根・一方通行「ハッ」

麦野「ブ・チ・コ・ロ・シ・カ・ク・テイ・ネ」

垣根・一方通行「すいませんでした！」ドケザ

通常から土下座までかかった時間０、２秒土下座の速さまで学園都市最強の二人だった…

麦野「あんたらなら大丈夫だと思うけど覗くなよ」

坂田「なんで今さら姉の裸見なくちゃいけないんだよ」

麦野「あぁン！？私の裸興味０ォ！？よっぽど死にてぇらしいなぁ！」

上条「どんなリアクションすりゃあ良かったんだよ」

坂田「そんなわけで布団を敷いて二人をマッテイマス」

上条「どんなわけだよつかこいつらどーする？」

垣根・一方通行だったなにか「」

坂田「ほっとけ」

上条「なぁ坂田」

坂田「…なんだよ」

上条「麦姉に好きな人出来たてしってるか？」

垣根「マジ！？」

一方通行「ありェネェ」

坂田「復活はや！」

上条「マジだよ！マジ！」

一方通行「どンな奴だ」

上条「わかんないけどレベル０らしい」

垣根「ありェネェー」

一方通行「人のアイデンティティーとッてンしゃネェ！」

坂田「アイデンティティーだったのか」

上条「ないわー」

垣根「厨二乙！」

一方通行「てめぇら相当愉快なスクラップになりテェらしいなぁ！あッド三下ァ！」

シネー　フコウダアーニゲレバカチ！レイトウコーベクトルソウサァギャー

美琴「またやってる」

麦野「そうね、（美琴ヤベー！今ならレベル６になれる）」

麦野（ハアアアアアアアアウオオオオオオオオオオオオオオ！！！！！！！！）

麦野（いける！）

麦野（今だアアアアアアアア！！！！！！！）

麦野（ふう）

美琴（一瞬お姉ちゃんから黒子とおなじオーラが）

黒子「ふぅ」1日目終了？

悲劇は突然に

御坂美琴は歩いていた。
常盤台中学に帰るためである。
もともと常盤台中学は寮なのだがそこはレベル５という名目でたまにならＯＫです。
ということになっている

御坂「なんで私だけ寮なのよ！」

実は一方通行と垣根と麦野が女子しかいない常盤台なら安心と思ったからである。
白井黒子のような例外がいるとも知らず…
考え事をして前を向かず歩いていたら
少女にぶつかった。むこうも考え事をしていたらしく、お互いにきずかなかったのである

御坂「いった、すいま」

？？？「いえ、こちらにも非がありましたとミサｋ」

お互いに相手の顔を見た、時間が止まったのかと思った

その少女の外見は髪は茶髪でショートヘアーに飾り気のないヘアピンなどおつけているが軍専用ゴーグルを着けていた
顔だちも整っていた
御坂「えっあんた、」

？？？「まさか…」

外見のすべてが同じだった。まるで鏡に写したような

御坂美琴は思いだした。自分のクローンがいるという噂を

御坂「まさか…私のクローン？…」

ミサカ「ミサカのオリジナルなのですかとミサカは驚きます」

塗り替えられようとしていた、彼らの世界が

日常から非日常にー

上条「ヤベー！遅刻する！確実に！」

坂田「誰のせいだ！言ってみろ！言うんだ！」

上条「上条さんの不幸に常時は通用しないんだよ！」

坂田「その不幸に巻き込まれてんだけど！」

今は夏休み普通なら学校などないのだが、担任から

「上条ちゃんと坂田ちゃんは馬鹿だから補修で～す」

とのラブコール

一方通行と麦野と垣根も同じ学校（垣根と麦野は違う学年だが）だが頭がいいので、行く必要がないのだ

上条「ついたぜ！」

坂田「言われなくとも解るはボケ」

二人は自分たちのくらすに向かう

上条「おはようございます」

坂田「おはようございます子萌先生」

子萌「おはようなのですよ上条ちゃん・坂田ちゃん」

月詠子萌、身長は小学生と変わらないのに、自分たちより年上つか

何歳？というトンデモ教師だ

子萌「さあ、補修を始めるのですよ」

坂田「土御門に青ピお前らもか」

青ピ「おっ上やんに坂やん、今日はアクやんはいないん？」

上条「あいつが補修はあり得ない」

土御門「だにゃー」

上条「にゃーにゃーうるせ」

土御門「つれないにゃー」子萌「そこうるさいのですよ」

坂田「すいません上条がテニス部の女子のパンチラ見てたもんで」

子萌「上条ちゃん…」

クラス全員（坂田を除く）ギロ

上条「…不幸だ」

一方通行「電話か」
今家にいるのは一方通行だけ
麦野はアイテムとか言うところにいって
垣根はスクールとか言うところにいっているので実質上、家にいるのは一方通行だけになる

一方通行「もしもし」

???「一方通行か」

一方通行「天井かよチッ」

天井「つれないな一方通行」

一方通行「世間話はいい要件だけ言えクソ研究者」

天井「絶対能力になってみないか？」

一方通行「なに？」
天井「むろん、断ることもできるだが…兄弟を守る力を手に入れる事もできる」
一方通行「…」

天井「君も知ってるだろう、暗部の存在を」

一方通行「あァ、なにせ兄貴と姉貴が入っているからな」

そう垣根と麦野は暗部に入っている
理由はただ一つ兄弟を守るため

天井「で、君はどうする？」

一方通行「いいだろう、受けてやる」

天井「では、〇〇に7時だわかったな」
一方通行「…あァ」
天井「では」

電話が切れた、

一方通行「これであいつらを暗部から救えるのか…」

一方通行「やってやろうじゃねェか！天井！」

少年は知らない悲劇の幕開けに自分が幕を開けてしまった事に

御坂「どうなってんのよ」

あの後自分のクローンと別れ呆然となっていた

御坂「どうなってんのよ…」

麦野「んで今回の仕事は」

絹旗「今回の仕事は超護衛するんです」

麦野「内容は」

絹旗「超簡単です。研究所を守るそれだけです」

麦野「そんな事でばよばれたの？」

フレンダ「まあまあ麦野がいれば楽勝ってわけよ」

滝壺「南南西から信号が」

彼女らは暗部の組織の一つアイテム

学園都市の汚い仕事を引き受ける集団

麦野「でいつから？」

絹旗「明日からです」

麦野「じゃ今日は解散」

「「はーい」」

滝壺「むっ北北西からも信号が」

「「「……」」」

垣根「んで俺を呼んだ理由わ？心理定規」

心理「別に、

垣根「はあ！？ふざけんな俺はこのクソ暑いなか空飛んできたんだぜ！？」

心理「なぜ空を？」

垣根「俺に常識は通用しないんだよ」

心理「まあ、いいわ」

垣根「いいのかよ！」

心理「今さらじゃない」

垣根「…要件を聞こう」

心理「そらした、まあいいわ、これ知ってる？」

渡されたのは、研究レポート

書かれていたのは。

垣根「絶対能力進化実験？」

一枚めくる事に垣根の顔は歪んでいく

垣根「…てん…か」

垣根「ふざけんな！くそがァァ！！」

心理「落ち着きなさい、第一そんな実験第一位が受けるわけないでしょ」

垣根「そうゆう問題じゃねえんだよ！！！」

垣根「研究施設の場所教えろ」

心理「いってどうするのかしら？」

垣根「決まってる」

垣根「殺す研究者を」

垣根「生まれた事を後悔するぐらいになぁ！」

心理「あらそう無駄だろうけど」

垣根「なんだと」

心理「落ち着きなさい」

垣根「…」

心理「まずこの実験を考えたのは、ツリーダアグラムというのが問題ね」

垣根「なに！ツリーダアグラムが！」

心理「ツリーダアグラムの演算でねそしてもう一つ」

垣根「まだあるのか」

心理「すでに妹達（シスターズ）が作られている事ね」

垣根「それがどうした」

心理「普通クローンが作られていたら、統括理事長が知らないわけないでしょ」

垣根「…」

心理「それに研究施設一つ破壊した所でどうなると思う？」

垣根「別の研究施設に拾われるっ…か…」

心理「んじゃ、伝えたわよ。さようなら」

心理定規はその場から立ち去って行った

呆然となって立ち続けている垣根帝督を残して

一方通行「ここか」
一方通行は立っていた

一方通行「しッかし誰もいないンだけど、麦姉のハンバーグ垣根食われちまうじゃねえか」

???「あなたが一方通行ですか？とミサカは確認をとります」

一方通行「お前誰？」

ミサカ「ミサカはミサカですとミサカは根絶丁寧にあなたに説明します」

垣根「あれ？一方通行は？」

坂田「研究があるらしい」

垣根「…まさか！」

上条「あれどうした垣根兄」

垣根「クソ！出かける！」

上条「おい！待てよ！」

坂田「なんだったんだ？」

上条「さあ？」一方通行「美琴なにしてんだァ？」

ミサカ「いえ、ミサカはお姉さま（オリジナル）のクローンですと物わかりの悪いあなたに説明します」

一方通行「クローン？ふざけんなよ！」

ミサカ「どうでもいいので実験を初めましょうとミサカは安に説明

するのがめんどくさい事を隠します」

一方通行「お前実験が関係者？」

ミサカ「はい、そうですとミサカは答えます」

ミサカ「続けても？とミサカは確認をとります」

一方通行「続けてくれ」

ミサカ「実験の内容はミサカと戦いミサカに勝てばＯＫですとミサカは根絶丁寧に説明します」

一方通行「えらく簡単だな」

ミサカ「では、これより実験を開始します」

ジャキとミサカはライフルを構える

一方通行（オイオイマジかよ！）

ダンダダンとライフルから爆音が響く

一方通行（実弾じゃねェか！）

しかし一方通行は避けない

一方通行を狙った弾は一方通行に触れた瞬間弾がそれた

ミサカ「あなたの能力はベクトル操作、反射すればミサカを簡単に倒す事ができるはずなぜミサカに反射しなかったんですか？とミサ

カは疑問をいだきます」

一方通行「いや反射したら死んじまうじゃねェか？」

ミサカ「説明不足でしたかとミサカは再度説明します」

一方通行「あン？」ミサカ「この実験はミサカと戦いミサカ二万回殺す事により成功しますとミサカは根絶丁寧に説明します」

一方通行「うそだろ？」

ミサカ「本当ですとミサカは物わかりの悪いあなたに説明します」

一方通行「ふざけんな！こんな実験やってられッか！」

ミサカ「どうしたのですかとミサカは疑問をいだきます。」

一方通行「てめえは死にたいのかよ！」

ミサカ「ミサカはあなたに殺されるために生まれてきたのですがとミサカは返答します。」

一方通行「そうかもしれねェな、でもな…」

一方通行「お前は今こうして生きてンだろうが！」

一方通行「俺に殺されるために生まれてきただ！？ふざけんな！お前は実験動物じゃないしお前は一人しかいないだろうが！なんで…なんでそんな事言うンだよ！？」

ミサカ「あなたが、なんと言おうとミサカの存在意義は死ぬ事です」

一方通行「じゃあ何でお前泣いてんだよ」

ミサカ「えっミサカは泣いているのですか？とミサカは動揺をかくせません」

一方通行「聞け、俺がな知ってる中ではな…」

一方通行「実験動物は泣かねェ」

ミサカ「！」

一方通行「泣くッてのはなァ普通の人間がする事だ！」

ミサカ「今さら、生きたいと思っても無駄ですとミサカはいいはなちます」

ミサカ「ミサカはクローン色々な薬品で急激に成長しているのでわずか数日しか生きる事はできませんとミサカは根絶丁寧に説明します。」

一方通行「んなもんなんとでもなる。」

ミサカ「本当ですかとミサカは確認します」

一方通行「あァ腕のいい医者を知ってるんでなァ」

一方通行「生きろミサカ」

ミサカ「ミサカは…もっと、もっと生きたいです！」

一方通行「いい返事だ」

一方通行は決意する、おそらく研究者はもっと非道な方法でミサカをけしかけるはず。

一方通行（なら、実験事態を止める方法を考えなくてはならない）

一方通行「ミサカ俺は実験を止めるだから実験の事を詳しく聞かせてくれ」

「俺が教えてやるよ！」

声のする方を見るとそこにいたのは

一方通行「垣根！？」

垣根「実験の事はもう知ってる」

一方通行「！？」

垣根「だから止める方法もわかった。」

ミサカ「本当ですか？とミサカは確認をとります」

垣根「うお！本当に美琴そっくり！」

一方通行「いいから教えろ！」

垣根「まあそう急かすなって」

ミサカ「前起きはいい速く教えてくださいとミサカは安に速くしろとあなたを急かします」

垣根「つれないな、まあいいまず一つこれは一方通行が最強を前提に行われている事」

一方通行「つまり俺が最強じゃない事を証明すりゃァいいッて事か」

垣根「そうだが、問題がある」

一方通行「問題？」

垣根「これはツリーダイアグラムがだした答えという事だ」

一方通行「実験を止めても、また繰り返す可能性があるって事か」

垣根「そう、問題は一つはＯＫだ」

一方通行「俺が最強じゃない事を証明する事か」

垣根「あいつを巻き込むのは気がひけるけどな」

一方通行「問題はツリーダイアグラムか」

垣根「坂田ならどうだ？」

一方通行「なるほど学園都市レベル６の力ならいけるかもな」

垣根「今から電話する」

ミサカ「ミサカのためにきてくれるでしょうか？とミサカは不安をあらわにします」

垣根「何言ってんだ！妹が助け呼んでんだ。くるさ！必ず！」

ミサカ「ミサカはクローンですよとミサカは動揺します」

一方通行「クローンなんざ関係ねェ誰がなんと言おうともお前達は俺達の妹だ」

我慢できなかった死ぬしかない未来を生きる未来に変えようとしてくれる事に

クローンなのに平然と妹と言ってくれる事に

ただ泣いた、嬉しくてたった一言泣きながら彼女は言う

ミサカ「あり…がと…う」

一人の少女の泣き声が響いた
実験動物としてでなく、
一人の人間として
一人の少女として

上条「なるほどな、わかった一方通行と戦えばいいんだな」
垣根「ああ、最強を否定するには最弱が必要だからな」
一方通行「ミサカは麦姉と美琴に任せたしとっと始めようぜ」
坂田「ツリーダイアグラム破壊ってとんでもねえなおい」
垣根「でもやってくれるんだろ？」
坂田「やらなかったら後味わるすぎだろ」
上条「じゃあ始めようぜ！」

一方通行「あァ悪いが本気でいくぜェそうしないと意味がないんでなァ」

上条「いくぜ最強」
一方通行「来いよ最弱」

始まった　学園都市最強と学園都市最弱の戦いが
二万人の命をかけた戦いが…

悲劇を喜劇に

坂田「ツリーダイアグラム破壊ってとんでもねえなおい」

垣根「でもやってくれるんだろ？」

坂田「やらなかったら後味わるすぎだろ」

上条「じゃあ始めようぜ！」

一方通行「あァ悪いが本気でいくぜェそうしないと意味がないんでなァ」

上条「いくぜ最強」

一方通行「来いよ最弱」

始まった　学園都市最強と学園都市最弱の戦いが

二万人の命をかけた戦いが…上条「一方通行あああああああああああ！！！！！」

一方通行「上条ォォォォォォォォォォォォォォォ！！！！！！」

拳と拳が交わるそれだけで風が吹き荒れる。

ベクトル操作と幻想殺し

ベクトル操作による拳は幻想殺しによりあっけなく打ち消されるが

衝撃の余波が上条を吹き飛ばす

一方通行もまた打たれ弱いため上条当麻の右手に吹き飛ばされる。
だが両者は尚も立ち上がる、
一方通行「響かねェぞ最弱ゥゥゥゥゥゥ！！！！！」
上条「まだ終わらねぇぞ最強ぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！！」
拳を交え何度も吹き飛ばす、何度も吹き飛ばされる。
だが二人は倒れない　何度でも立ち上がる、何度でも拳を握る、何度でも拳を相手に叩きつける。
二人は引かない互いの信念を持って。

百回転んだら百回立ち上がればいい
千回堕ちたなら千回這い上がればいい

悪にしても胸を張れ。闇の世界を突き進んだとして、それでも光を救って見せろ

だから倒れない
だから立ち上がる
二人の立場は正反対　だがそれでも二人は救おうとする。
立場も何も関係ない守りたいものがあるだから戦う、
だから救う
二万人の命を救うために二人は引かない

坂田「ツリーダイアグラムを破壊して救って見せる必ず！」
坂田太陽は今からツリーダイアグラムを破壊しようとする。　それは学園都市に喧嘩を売るようなものだ
無謀とも言える、恐ろしくて、口の中が乾く

だが

坂田（それがどうした？学園都市に喧嘩を売る？そうだよ！怖いさ逃げたいよ）

坂田（だからって、馬鹿な家族を見捨てるわけにわいかねぇんだよ！！！！！）

彼もまた信念がある

どこまでも灰色に、狭間の道を進め。誰にも認められなくてもいいそれでも救う、自分のために自分の世界のために

坂田（さあ、始めますかあ！）

垣根「始まったか…」

垣根帝督は悔やんでいた何もできない自分が腹立たしくて仕方なかった。

垣根（結局、あいつらに頼るしかねぇのか…？）

麦野「始まったわね…」

垣根「…ああ」

麦野「私ね自分がむかつく、なんにもできない自分が…」

垣根「…俺もだよ」

麦野「情けないよね…お姉ちゃん…なのに」

麦野「私…グス…何にもしてやれない…あの子達に…」

麦野沈理は泣いていた、力があるのに何にも手伝えない自分が腹立たしくて、悲しくて

垣根「あるさ…俺達にできる事」

麦野「…えっ？」

垣根帝督は言う。まるで自分に納得させるために言っているようだった

垣根「あいつらが帰ったら、おもいっきり抱きしめりゃいい、」

麦野「…」

垣根「あいつらのために、今はそれぐらいしかしてやれない…だけど、あいつらの居場所にらなれるだろ？」

麦野「そうね、そうよね…うじうじしててらしくなかったわね、ありがと垣根」
垣根「ああ、だから今は待とうぜ、あいつらを」

ミサカ「大丈夫でしょうか？とミサカは不安を口にします」
美琴「大丈夫よ、お兄ちゃん達なら」

ミサカ「何を根拠にいいきれるのですか？とミサカは疑問を抱きます」

美琴「お兄ちゃん達はね、今にも泣きそうな妹をほうて勝手にいなくなったりしないのよ」

ぼろぼろになって帰ってくるこどね？と美琴はつけたした

ミサカ「ミサカが気持ち悪くないのですか？とミサカは疑問を抱きます」

美琴「何で？」

ミサカ「ミサカはお姉さまのクローンですよとミサカは返答します」

美琴「確かに最初はビックリしたわね」

美琴「でもね、」

美琴「あんたは、もう生まれた瞬間から私達の妹なのよ？自分で巻いた種だし、誰もあんたを見捨てたりしないわよ」

ミサカ「…一つお願いしてもいいですか？とミサカは確認をとります」

美琴「何？」

ミサカ「ぎゅうってして欲しいんですとミサカは恥ずかしさを欠くしながら心中を吐露します」

美琴「いいわよ、それぐらいいつでもして上げる」

ミサカ「ありがとうございますとミサカはミサカは…」

美琴「やっぱり私に似て泣き虫ね」

そっと抱きしめた、体温が伝わってくる、何かが壊れた気がした。

二万人の幻想が壊れた…

死ぬしか意味がないという幻想が

坂田（演算開始っと）
坂田は演算を開始した
いくらレベル６でも、敵は宇宙にあり並大抵の固さではない、チャンスは一回　　おそらく一回目が失敗すれば、誰かが邪魔をしに来るだろう
だからこそ失敗するわけにはいかなかった。
坂田（まったく、妹のために学園都市に喧嘩売るって結局俺もシスコンなのかよ）

坂田（まあ、破壊し終えた後で考えよう）

坂田（レールガンの要領でダークマターとベクトル操作で加工すりゃあいいか）

坂田（問題は標準だ、どうすっかな）

坂田（ベクトル操作でねじ曲げるか？いやその分威力が下がる、考えろ考えるんだ！）

地球は一秒間に５００メートル進む、それでも物が横に飛ばないのは重力で地球に縛りつけているから、

坂田（なら重力を操れば？軌道はそれずに、ツリーダイアグラムま

でとどくいや駄目だ重力がないと打ち出す力が弱くなる）
地球の重力をなくせばふわふわ浮いて打ち出す事ができない
坂田（何か、何かあれば、レールガンの磁力をもっと強くすれば？
いや、そしたらツリーダイアグラムに届く前に鉄が消えちまう！）

しかしそこである方法をおもいつく

坂田（そうか！この方法ならいける）

坂田「レールガンのパワーアップにメルトダウナーを使用鉄をダークマターとベクトル操作により強化開始、強化終了」

坂田「これより、レールガンを超えた［プラネットガン］を使用装填開始…装填完了プラネットガン発射まで残り5、4、3、2、1、0」

坂田「とどけえええええええええええええええええ！！！！！！！！！！！！！！！！！」

坂田太陽は叫んだ、自分の力の全てをつぎ込んだ一撃は、触れた対象を破壊する一撃となっていた

最強ではなく無敵、神の意志にもっとも近いからこそできる技だった

窓のないビル

統括理事会「統括理事長たった今ツリーダイアグラムが謎の攻撃をうけ破壊されました！」

統括理事長「ふむ、案外はやかったな。」

統括理事会「それはどう言う事ですか！？」

統括理事長「何、これもまたプランの一つ、好調過ぎて怖いぐらいだよ」

逆さまの人間は笑う男とも女とも言えない若いようで年老いても見える

統括理事長「さあ、始めようじゃないか」

統括理事長「幻想殺し、幻想創造よ」

人間は笑う不適にまるで世界の全てが自分のオモチャのように

坂田「しっかし自分でもビックリするぐらいうまくいったな」

彼が何故ツリーダイアグラムにプラネットガンを当てる事ができたかそれは至って単純、磁力を利用したのである。

ツリーダイアグラムは人工衛星常に学園都市に情報をもたらしている。

宇宙空間に耐えうるためには、もちろん金属を利用している。

したがってプラネットガンを発射するさいに、プラネットガンに大量の磁力を与えた

後はツリーダイアグラムがプラネットガンに吸い寄せられるか、プラネットガンがツリーダイアグラムに吸い寄せられるかである。

簡単に言えば、磁石に鉄の釘がくっつくと同じ要領である。

レールガンはもともと磁力を利用して撃つもの、当然磁力のある方に多少なりとも曲がる。

それを利用したのである。

坂田「俺の役割は終わった」

坂田はその場に倒れた、体力の限界などとっくに超えていた。

坂田太陽は言った、

「後は頼んだぜ、ヒーロー！」

坂田太陽はそれだけゆうと寝てしまった。

その顔はどこか満足げだった

上条「うおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

一方通行「はああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

上条当麻と一方通行は戦い続けていた。

上条の右手が一方通行の顔面にクリーンヒットした。
一方通行はそんな事は気にしず上条の溝うちにパンチを叩き込んだ

上条「ブベラァ」

一方通行「ギハア」
上条「ハアハア」

一方通行「ゼイゼイ」

上条・一方通行「「うおおおお！！！！！！！！！！！！！！！

！！！！！」」

バキィと二人の腕から嫌な音がした

一方通行「…決着を着けようぜ」

上条「…」

一方通行「お互い体はボロボロ立っているだけで限界だ…」

上条「……いいぜ、決着を着けよう、」

二人は同時に言う

「「いくぜ最弱（最強）！」」

「「俺の最弱（最強）は…」」

「「ちっとばかひびくぞ！」」

上条当麻の信念と一方通行の信念がぶつかる

ドゴォと二人の拳は相手の顔面に炸裂した…

そして二人は同時に倒れた…

「ありがとう」

相手が言ったのか、それとも自分が言ったのかわからない。

だけど確かに聞こえた。幻想だったのかも知れない。

だけど確かに聞こえた
そして二人の意識はそこで途切れた

目が覚めると白い天井が見えた

坂田「病院か…」

一方通行「起きたか」

上条「グースー」

坂田「よりにもよって、お前らと同じ病室とはな」

一方通行「こッちのセリフだァ」

上条「うお、何で俺ら病院で寝てんの？」

一方通行「お前のせいで体のあちこちがいてェンだけどォ」

上条「お互いさまだろうが、坂田は何でいるんだ」

坂田「能力の使いすぎで倒れて体のフィードバックが今さらやってきた」

上条「そうだ実験は！？」

一方通行「さあ？」

上条「さあ？ってお前…」

坂田「誰かきたみたいだぞ？」

垣根「よ～愚弟ども元気してたか？」

坂田「俺達の状態を見て言え」

垣根「まあまあ、その代わりコレ持ってきたぞ」

垣根がどこからともなく本を取り出す

その本の内容は

上条「エロ本かよ！？」

垣根「まあまあ、一方通行は幼女もの、上条は幼なじみ、坂田は年上のねいちゃんだよな」

上条・一方通行・坂田「「「俺らの性癖を的確に突いたエロ本持ってくんな！！！！！」」」

垣根「でも読むんだろ？」

結局、少年達は青春真っ只中垣根の意見に逆らえる訳もなく。

一方通行「…よこせ」

上条「…俺にも」

坂田「…気に入らないやつだったら…」

垣根「ほらよ」

兄弟仲良くエロ本を読みふける、正直言ってあの実験を止めた人と同一人物なのか疑いたくなる

麦野「お見舞い持ってきたわよ～って…」

美琴「どうかした～って…」

ミサカ「お二人ともどうかしましたかとミサカは…」

皆さん、考えて見てください。
自分の兄弟が病院で堂々とエロ本を読みふけっていたら…
しかもおもいっきり性癖全開のエロ本を読んでいたら…

上条「」

坂田「」

一方通行「」

垣根「」

麦野「」

美琴「」

ミサカ「」

当然こうなる

麦野「ごゆっくり～」

一方通行「待て勘違いだァ！」

美琴「大丈夫、お兄ちゃんはどんなになってもお兄ちゃんだから」

上条「汚れた物を見るような目で上条さんをみないで」

ミサカ「大丈夫ですお兄さま達ぐらいの年なら誰しももっていると

ミサカはお兄さま達にフォローをいれます」

坂田「フォローになってないよ！？全然！」

麦野「ごめん」

垣根「ねぇ！何で謝るのねぇ！目を反らさないで！お願い！」

必死に誤解（事実）を解くこと数十分

上条「とりあえず聞くけど実験はどうなった？」

ミサカ「皆さんの力により実験は凍結しましたとミサカは真実を告げます」

一方通行「そうかァ」

垣根「まあ、調整があるけど」

坂田「そうか、でもなんとかなるだろ？」

ミサカ「ハイ、ミサカ達はこれから学園都市の外にいき、何人か残りますとミサカは告げます」

上条「そっか…まあ俺が言うと可笑しいかもしれないけど喧嘩は駄目だぞ」

垣根「可笑しいな確かに」

坂田「つい昨日喧嘩してたやつのセリフじゃねえな」

一方通行「確かに」

麦野「あんたが言うな！」

ミサカ「あの…全ミサカを代表して言います」

全員「？」

ミサカ「ありがとうございます。とミサカは感謝してもしきれまない思いを吐露します」

上条「気にすんなよ」

美琴「家族でしょ」

垣根「ギネスブックに載るなこりゃ」

麦野「二万人だもんね」

一方通行「たまには顔だすわ」

坂田「二万人は相当だぞ」

冥土返し「実に人間らしいじゃないか」
看護婦「そうですね」

冥土返し「まったく彼らを見ていると飽きないよ」

冥土返しは困ったような笑みを浮かべる。
見ているのは、どこにでもいる普通の家族

冥土返し「アレイスター君は少々彼らを嘗めすぎているんじゃないかい？」

こうして彼らは帰っていった。
非日常から日常に

悲劇を喜劇に（後書き）

シスターズ編終了です

ちなみに次はインデックス編です！

オリキャラの能力はまだ秘密があります

次回予告

インデックスっていうんだよ？

突然現れた純白シスター

魔女狩りの王
イノケンティウス！
迫りくる魔術師

うっせえんだよ！ど素人が！

インデックスの秘密に迫るとき。
ついに科学と魔術が交差する！

部活

一方通行「不幸だ」
坂田「上条の不幸が伝染してね？おもに俺達に」
上条「ノーコメントで」
垣根「いいから練習だ練習」

彼ら四人は部活に入っている。
バンド部上条ら四人と土御門によって形勢されている。
理由は学校に入ってから半ば強引に垣根に無理やり入らされたのだが、本人達も結構ノリノリだったりする

ちなみに、上条はギターとボーカル
坂田はベースとボーカル
一方通行はボーカル
垣根はピアノ
土御門はドラムである

土御門「おはよーかみやん達」
坂田「おはよう」
上条「土御門早いな」
土御門「舞夏に部活だろ？って追い出されちまったんだにゃー」
一方通行「ざまァねぇな」

垣根「あり？顧問は？」

土御門「それがまだきてないんだにゃ～」

坂田「さっき入って準備しとくか？」

上条「アンチスキルとかで忙しいのかもな」

一方通行「コーヒー飲みてェ」

垣根「さっき飲んでたじゃねえか！」

一方通行「あの程度じゃたりないンですゥ」

坂田「どの曲から練習する？」

一方通行「なンでもいいだろォとりあえず準備しろ」

？？？「オース、練習してるじゃん！感心感心」

一方通行「遅ェよ、黄泉川」

黄泉川愛穂バンド部の顧問でアンチスキルに入っている。レベル４程度なら素手で押さえつける事ができる、とんでも教師だ
外見は美しく爆乳しかし緑ジャージのため色気がない
本当なら、子萌先生がなるはずだったが、学校のブラックリストの頂点を集めたようなものなので、鉄拳制裁ができる黄泉川に顧問なったのだ。

黄泉川「いやー遅くなって悪かったじゃんアンチスキルの勤務で寝坊しちゃって」

上条「大変そうですね、アンチスキルって」

黄泉川「いやー、慣れれば簡単じゃん」

垣根「おもに、俺たちをボコボコにする事だな」

黄泉川「愛の鞭って言ってほしいじゃん！」

坂田「それで？大変だったなシ・ゴ・ト」

何か含みのある言い方をする坂田

黄泉川はギク！っと坂田から目を反らした

黄泉川「さ、さ～あ練習を始めるじゃんよぉ～」

上条「先生どうしたんですか？」

坂田「頭痛だろ」

垣根「なんでわかんだよ？」

坂田「ほれ頭痛薬」

黄泉川「気がきくじゃん？ありがたくもらうじゃん」

坂田「どーせ昨日飲み過ぎたんだろ」

黄泉川「なんでしてるじゃん！？」

坂田「かまかけたんだよ」

黄泉川「騙すなんて酷いじゃん」

上条「さすが一緒に暮らしてただけあるな」

土御門「羨ましいんだぜい」

垣根「まったくだ！」

坂田「炊飯器だけの料理食ってみろ、自分の中の食事概念がきえるぞ」

黄泉川「うまそうにくってたじゃん！」

坂田「普通の料理のレシピ一から覚えたんだぞ！」

垣根「そういや麦姉にしごかれてたっけ」

そんな下らない事を言いながら笑う
これが彼らの日常だった

だが、彼らは巻き込まれる

？？？「お腹空いたんだよ」

魔術に

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1556u/

上条・御坂・一方通行・垣根・麦野・坂田「学園都市最強の兄弟だ！！！」

2011年10月9日08時10分発行